

月刊 清水家通信

祝 卒園



天気予報は雨だった。しかし、精度が上がった。最近の天気予報も、こんな日だけははずれてもいいじゃないか。そんなふうにも思わせる絶好の卒園式日和になった。

平成一四年三月一八日(月曜日)、幼稚園の卒園式が、厳粛な雰囲気の中、挙行された。

平成十一年四月の入園以来、三年間の幼稚園での生活を無事終了し、いや、入園前の体験入園「さくらんぼ教室」から数えると、なんと四年間の通園であった。

「さくらんぼ教室」のうち一学期の間は、まだ引越前、瑞穂区から地下鉄を利用していた通園。本当によく通ったものだと思つた。入園のときに、あんなにぶかぶかだっただけの制服

も、今では少し小さいくらいになって、体はもろろん、気持ちも、考え方もすっかり成長し、そして何よりも「喜んで」幼稚園に通いつづけた事が両親を一番ホッとさせた。

卒園式直前は、厳しい練習のため少々疲れ気味であったが、その練習の甲斐あって、園児の証書の受け取り方、返事の仕方、お話を聞く態度など、どれをとってもそれはそれは立派な卒園式だったと思つた。

我が家の息子も、他の園児に負けないくらい立派に式に参列できた。



あいさつでは、先生も感極まって言葉にならず、園児たちや保護者の中にも泣き出す人が数人いて、感動的なセレモニーとなった。お世話になった教室や運動

発行所
清水家通信本社
編集長 清水(夫)
<http://hopepage2.nifty.com/atHomeShimizu>
購読のお申し込みは
こちらへ
mega.shimizu@nifty.ne.jp



場、大好きな先生、友達と別れを告げる日がとつとつやってきました。

息子の心には、この日の出来事がどのように残つたのだろうか。

息子の少しの涙と、素敵な印象に残る一日であった。



生活発表会

卒園式に先駆けて、二月二十二日に幼稚園で、生活発表会が行われた。クラスごとに「ハーモニカ演奏」、「合唱」、「器楽演奏」、「劇」の発表を行うもので、特に年長組は三年間の成果を発揮するために、非常に厳しい練習が続いたよつである。

「器楽演奏」では得意のピアノを活かすべくピアノ担当に。他の園児たちが鍵盤にシールを張っておぼつかない指で演奏するところを、見事余裕でクリア。



続く「劇」では、「アリババと四十人の盗賊」の「盗賊の頭(かしら)」役で登場。その感情あふれる台詞の言い回しと、付けひげの迫力は、観客席からどよめきが起こるほどであった。編集長としては、助演男優賞を送りたい、そんな演技であった。



清水家が雑誌に載ります!

清水家で飼っている三匹の犬のうち、リブリーはラブラドルレトリバー、リョナはゴールデンレトリバー、共にレトリバーという犬種にあたるわけだが、このレトリバーという犬種のみを扱った隔月刊誌「レトリバー」の「君といつまでも」というコーナーに清水家の写真が掲載されることになった。

実は、毎号五十組ほどの家族の写真が掲載されるコーナーで、特に清水家だけが大きく取り上げられるわけではないが、応募が殺到する人気コーナーに当選できただけでも非常にラッキーである。

撮影日は三月十日。場所は



は小幡緑地公園。さすがにその日はどこを見ても犬・犬・犬。しかもレトリバーばかり。公園を散歩する一般の人たちも不思議そうな顔で「今日は何かあるんですか?」と聞いてくるのも無理はない。

肝心の撮影は、出版社の人が一生懸命おもちゃを使ってリブリーたちの気を引いてくれて、何とか終了。さて、出来はどうだったのか?

掲載号は五月十四日に全国の書店で発売される。

おとうさん おかあさん

息子も卒園を機に「パパ」「ママ」で通ってきた親の呼び方を「お父さん」「お母さん」に改めようと持ちかけてみた。

実は、少し前にも同じことを提案したときには、息子は乗り気ではなく、どうしていけないの? という感じであったが、今回はその気になったようで、呼び方の練習が始まった。

しかしこれがなかなかうまくいかない。いや、うまくいかないのは息子ではない。父親である。

「息子、ちよつとそれパパに...いやお父さんに取ってくれる?」

という具合に、息子がマスターして数週間たった今も、まだ頭の切替がうまくいかないらしい。

これも歳のせいかな...